

京の今様染織の匠を訪ねる会

2008.2.18

今回は、京都の今なお残る特殊技法と他には類をみないノウハウを持ち、その伝統を現在のニーズに合わせて伝える三つの工房を訪れた。

まず最初に訪れたのが、デジタル紋織で金襴緞子の袷裳などを織っているデジタルと伝統技法が結びついた織物を製織している「大根屋山本弘商店」だ。この工房では他に私たちにとても身近で誰もが一つは持っているのではないと思われる‘お守り袋’が作られている。よく見ると、柄が凝っていて魅力的な袋である。

次に、ピロード、別珍などを手で織り、手作業でカットパイルを制作している京都で唯一の工房、「日本天鷲絨工業株式会社」を訪ねた。ここでは、実際にカットパイルをしている所と、その後園部にある工場へ向かい、有線の手織りを見せて頂いた。これぞ職人技と言われる手仕事が残っていた。昔は百人以上いた工場が今はたった五人ぐらい、それでも‘made in kyoto’を強く唱い強い信念でモノづくりをし、新しいものを生み出そうとしている。

最後に訪れたのが、かやぶきの里で有名な美山町にある「小さな藍美術館」だ。平成五年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された、二百年前の趣きある建物の中で静かに藍染めが行われていた。建物の二階が、世界中から集められた藍の布コレクションの美術館で、一階では、古来より伝わる手法で藍染めを行っている。

今回訪れた、三つの工房はいずれも‘本物’を追求し続け来世に残るモノづくりをしている。この強い灯火を絶やすことなく伝えていきたい。

(貴志 友美子)

